

箕面市教育大綱(別紙)(素案)

学校教育 子どもたちの「生きる力」と「つながる力」を育みます

① ICT を活用した情報活用能力の向上

1人1台のタブレット端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、コロナ禍におけるオンライン授業の実施や、多様な子どもたち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を図り、子どもたちの力を最大限に引き出す。

② 英語教育の強化によるグローバル人材の育成

外国人の英語指導助手を全ての小学校に3~5人ずつ、中学校に3~4人ずつ配置する全76人体制を目指し、チームティーチングや1クラスを分割した少人数での英語活動を通して高い英語力を身につける。さらに、英語で自分の考えを伝えることを中学3年の到達目標とし、多文化理解も深めながら国際社会で活躍するグローバル人材を育成する。

③ 体力向上を図る取り組み

副読本・指導書を活用した体育授業から運動に対する意欲を高める取り組みや、小・中学校の箕面子どもステップアップ調査の分析結果を地域の関係団体と共有しながら、体を動かすことが好きな子どもを育むとともに、熱中症対策をしたうえで夏季の運動機会の確保に努め、児童生徒の体力向上を図る。

④ 教員の授業力・指導力のさらなる向上

授業力、教員への指導力が傑出している教育専門監(指導員)を配置し、訪問校の教員を直接指導するとともに、全小中学校の研究部長に指導助言することで、教員の授業力・指導力の向上を図る。

⑤ 小中一貫教育のさらなる推進

9年間の連続性のあるカリキュラムの策定や連携型小中一貫教育の推進に向け小中学校間の人事交流を深める。

⑥ 35人学級の早期実現

国の動きに先駆けて、令和3年度に小学校3年生を35人学級とし、1年前倒しで令和6年度までに全学年へ拡大することで、きめ細かな指導体制・環境整備を早期に構築する。



子育て施策 家庭・学校園・地域で「つながる力」を育みます

① 豊かな人間力を育むための子育て支援

子どもの権利擁護やすこやかな心身の成長の観点から、体罰によらない安心・安全な子育ての啓発と支援をする。子育て世代包括支援センター、子ども家庭総合支援拠点の考え方をベースとした相談体制を構築するとともに、個別の課題に応じた支援を実施・展開する。

② 貧困の連鎖の根絶

教育委員会や学校等が各種機関と連携し、乳幼児期から小中学校、高校卒業の時期に至るまで、切れ目なくそれぞれの子どもの状況を把握し、自信と能力、気概をもてるようサポートし続ける。

教育委員会は、子ども成長見守りシステムのデータや教育・福祉等の関係機関からの情報をもとに、必要な場合に学校等に指示を出し、支援方策についてコントロールしていく。

③ 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援

子育て世代包括支援センターを拠点として、妊娠届を端緒に、すべての妊産婦や母子に対して、安心・安全ですこやかな妊娠・出産、産後をサポートする。

④ 全ての子どもが安心できる幼児教育の実施

市内保育士・幼稚園教諭の子ども理解力・実践力・連携力の向上を図るため、公立・私立を問わず、市内保育士・幼稚園教諭への研修等を実施する(仮称)箕面市幼児教育センターを設立するとともに、就学前支援教育の場として、あいあい園の更なる機能強化をめざす。

⑤ 子育て支援と外出促進

子育て中の親子が孤独感なく日々過ごすことができるように、地域や同世代の子どもをもつ保護者と繋がりをつくる機会として気軽に集える場を数多く設ける。市内公園においては、物理的にゾーニングをした「幼児ユニット」の設置を進める。



生涯学習・社会教育 「いつでも・どこでも・だれでも、学びたいことを学ぶ」を育みます

① スポーツを通じた健康長寿への取り組み

乳幼児から若者、高齢者に至るまで、世代を超えて誰もが気軽にダンスや体操などスポーツを楽しめるよう運動機会の充実を図り、運動習慣の定着と体力向上を目指す。特に、就職や子育てを機に、スポーツから遠ざかっている方々がスポーツを再開し、無理なく続けていけるよう、身近な地域で気軽に参加できる環境を整備する。

利用者が気持ちよく安全にプレーできる環境を確保するため、体育施設の整備、備品維持管理に努める。

② 図書館サービスの充実

社会のデジタル化進展を活かし、来館しなくても図書を利用できる電子図書館の活用を推進する。

乳幼児から高齢者まで誰もが利用しやすい公共図書館づくりを進める。

③ 生涯学習の場の充実

新設された船場生涯学習センター、船場図書館、文化芸能劇場を活用した国際理解の推進、芸術文化活動の振興など、大阪大学との連携協力をしながら、生涯学習の場を充実する。

